

## 第3章 企画・実践のヒント

地域住民を始め、地域内外の多様な主体とつながり、アイデアを出し合ひましょう。  
企画や事業の運営を、「ひろプロ」コーディネーターがすべて一人で担う必要はありません。  
様々な人々と地域の未来の姿について、語り合ひ、知恵を出し合ひ、「目的」を共有してともに行動しようとするプロセスの中で、プロジェクトに関わる様々な人々の当事者意識が育まれ、新しい価値が生まれます。



# 1 コーディネーターの役割

「コーディネーター」とは、物事が円滑に行われるように全体の調整や進行を担当する人です。社会教育の専門職として求められている「コーディネーター」には、①学習課題の把握と企画立案能力、②コミュニケーション能力、③調整者としての能力、④幅広い視野と探究心等が必要とされていますが、ここでは、これらを参考に「ひろプロ」コーディネーターの役割として整理した「8つの視点」についてご紹介します。

## 「ひろプロ」コーディネーターの役割 8つの視点

### ① 住民の歩みに伴走する

- 住民と積極的に対話し、困り事ややりたいこと等の思いを知る
- 信頼関係を結び、ともに考え行動を始める
- 住民が地域の課題や将来像を共有し、当事者意識をもって協働できるよう働きかける

### ② 客観的に地域を知る

- 地域の情報を幅広く収集し、地域の来歴や特性、現状を客観的に把握する
- 様々な資源や情報とつながるネットワークを持つ

### ③ 地域の過去と現在と未来をつなげ、企画する

- 地域の現状・課題やその背景を把握・分析し、物事の関係性を構造化して捉える
- 個人のニーズと社会の要請のバランスを視野に置き、地域課題を見極める
- 課題解決に向けたプロセスを明らかにし、地域資源を生かした企画を立案する

### ④ プロジェクトを組み立て、実行に向けて調整する

- プロジェクト運営に必要な仕組み・体制（チーム）を組み立てる
- 状況を客観的に判断し、実現可能なスケジュールを組んで進捗を管理・共有する
- 「目的」の達成に向けて、直面する課題や障壁をチームで乗り越えやりとげる

### ⑤ 円滑なコミュニケーションをとる

- 多様な価値観を柔軟に受け入れ、共感をもって対応する
- プロジェクトの意図や内容を住民や関係者に分かりやすく伝える
- ファシリテーションのスキルやマインドを身に付け、人々の思いや力を引き出す
- それぞれの思いや譲れない部分を明確にし、違いを共有しながら粘り強く話し合う
- 異なる立場や役割、利害関係にある人々がともに納得できるゴールを目指し調整する
- 自らが好奇心をもって前向きに学び、新しいことに楽しみながら挑戦する

### ⑥ 地域づくりの基盤となるネットワークを育む

- 他部局やNPO、学校、企業等の多様な主体とのつながりをもつ
- 多様な主体と連携・協働し、お互いの強みを生かしたネットワークを育む
- 人と人とのつながりを生み出し、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）を創出する

### ⑦ ビジョンを持つ、共有する、更新する

- 地域の課題を自分事として捉え、主体的に関わる
- 地域にとってどういう未来が理想的な姿か、具体的な「ビジョン」を持つ
- 地域のビジョンを多様な人々と共有し、新たなものへと更新する

### ⑧ プラットフォームとしての「公民館」をデザインする

- 「学びから始まる地域づくり」を実現するこれからの「公民館」の在り方を描く
- 地域内外の多世代・多目的・多様な人や組織が乗り入れ可能な学びと創造の場をつくる
- オープンでフラットなプラットフォームとしての「公民館」をデザインする

## 2 地域を知ろう（分析シートの作成）

「ひろプロ」立案に必要な地域分析のヒントを説明します。「分析シート」を作成してみましょ。

「分析シート」は、様々なプロジェクトを構想するための「地域カルテ」のようなものです。すでに地域にカルテがあるならそれをベースにしてもよいでしょう。

### ▶▶「ひろプロ」分析シート（90 ページ）

#### 1 まずは地域の現状・課題を把握しよう

地域の現状や実態を、なるべくたくさん、できるだけ具体的に収集し、地域課題の把握や解決の方向性の洗い出しを行っていきましょう。

##### ▶地域（コミュニティ）の情報を収集し、地域の特性を見つけましょ

地勢・地域条件や地域住民の生活状況、教育・文化的環境の現状や実態等を把握ましょ。

##### 【収集情報の一例】

- 人口    世帯数    世帯構成（一世帯あたり人員）
- 年齢（区分）別人口（割合）    地区別世帯数・人口
- 高齢者人口（後期高齢者、独居高齢者）（割合）    年少人口（割合）    生産年齢人口（割合）
- 生活保護率    ひとり親世帯率    持ち家率    所得状況    外国人数
- 地縁団体（自治会・子供会・老人会・女性会・青年会等）加入率
- 自主防災組織等の有無    （土砂災害）危険箇所
- 教育・文化施設    地元企業・商業施設    福祉・医療施設    工業施設
- その他

##### 【公民館等の状況】

- 利用者数（世代別利用割合）    年間開館日数（開館時間）
- 対象人口一人当たりの年間利用回数
- 講座・事業数（参加者数、学習内容別割合）    登録団体・サークル数（活動回数）
- 地域課題の解決に向けた講座・事業（特色ある取組）
- 公民館運営審議会等の委員数（年間総開催時間、審議テーマ）    その他

#### ヒント

◎自治体の持っている統計資料・情報を積極的に活用ましょ。

- ・「国勢調査」で多くの統計情報が得られます。
- ・自治体で「オープンデータ」を公開していれば活用ましょ。

◎ヒアリングも有効な手段です。住民や関係者の声を聴き、地域特性を確認ましょ。

◎地域の特性は、これまでの地域の歴史とつながっています。現在の地域の様子だけでなく、地域の来歴についても調べてましょ。

◎収集した地域の情報を他の地域と比較するなどして、地域の特性を発見ましょ。

## ▶見えてきた地域の実態から「地域の課題」を抽出し、「解決の方向性（こんな地域にしたい）」を描いてみましょう

課題の根拠をしっかりと示し、地域社会のニーズ（社会の要請）や住民の思い（個人の要望）のバランスを視野におきながら、「地域の課題」や「課題解決の方向性」を描いてみましょう。日常生活の中で「困ったな」「地域社会がこう変わればもっと暮らしやすくなるのにな」と感じることは、広く「地域課題」と捉えられます。

### ヒント

◎今回取り組む企画のテーマは、どのような地域課題やニーズとつながっていますか。

例）次世代育成，地域と学校の連携協働，家庭教育支援，防災・減災，地域の絆づくり，高齢者の健康寿命延伸，社会的包摂の実現，貧困問題，教育格差，環境保全，国際理解，伝統文化継承，若者支援…

◎いろいろな視点から「地域課題」を捉えてみましょう。

- ・「課題」として捉えていたものが，視点を換えればポジティブな「資源」に捉え直せるかもしれません。例）高齢化率が高い → 経験豊富な住民が多い
- ・数多くある課題の中から，緊急性や実現性に応じて優先順位をつけることも大切です。「生涯学習・社会教育」（学びから始まる地域づくり）の観点から課題を整理してみましょう。
- ・顕在化している課題だけでなく，潜在化しているものを「見える化」（顕在化）させて把握することも大切です。

◎見えてきて地域の現状や課題が将来的にどのようなになっているのが理想的か考えてみましょう。

- ・課題が解決した後の状況（地域住民の生活）をできる限り具体的に思い浮かべましょう。
- ・今回の取組を実施することで直接的に起こりうる成果だけでなく，長期的な視点で地域に及ぼしたい波及効果や影響（インパクト）についても考えてみましょう。

## 2 既存の事業（現在・過去）の成果と課題を整理しよう

これまでに取り組んできた公民館等での講座や事業を捉え直してみましょう。過去に類似した取組がなかったでしょうか。その取組が継続していない（している）理由は何でしょうか。

### ヒント

◎関連行政・学校・民間・団体等の事業についても調べてみましょう。

- ・連携・協働することで新しい価値を生み出せそうな関係性が見つけれませんか。
- ・対応する行政施策（総合計画・教育振興基本計画，生涯学習推進計画，社会教育計画，各種答申やアクションプラン等）はあるか，また，その担当部署はどこでどのような取組を行っているか調べてみましょう。
- ・現在，地域で進めている事業・計画などはありませんか。「地域ビジョン」が策定されていれば積極的に活用しましょう。

◎地域や自治体内の取組に限らず，参考にしたい「先進事例」を積極的に集めましょう。

- ・広島県内の公民館等の取組事例は，広島県立生涯学習センターHPからご覧になれます。

**検索** 「**ばれっとひろしま**」 → 「公民館等の取組事例集」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/torikumijireisyu1.html>

- ・他の自治体の施策・事業や，企業の社会貢献活動（CSR），大学・NPOの取組等，幅広く地域内外（国内外）の先進事例を探してみましょう。先行事例や既存調査で解決方法が提示されているかもしれません。

### 3 地域の資源（ヒト・モノ・コト・カネ）を洗い出そう

地域の人材や資源を積極的に活用するために、どんな資源があるかできるだけ具体的に洗い出してみましょう。

#### 【ヒト】

- 住民（キーパーソン，協力者）      自治協議会
- 公民館等団体利用者（サークル・クラブ等）
- 小・中・高等学校（児童生徒，教職員，保護者（PTA））
- 民生委員，主任児童委員，保健師，保育士
- 老人会，女性会，子ども会      社会福祉協議会      農業協同組合
- 地元企業      NPO      地域おこし協力隊
- その他

#### 【モノ】

- 特産品，生産物      公共施設（集会所，公園，駅）      公共交通
- 教育・文化施設（学校，大学，図書館，博物館）      地元企業・商業施設・商店
- 福祉・医療施設      幼稚園・保育所・認定こども園      文化財・史跡      工業施設
- その他

#### 【コト】

- 歴史      文化      郷土料理      伝統行事（祭り）      伝統芸能
- 産業      観光      自然・環境      防災・防犯・地域安全活動
- その他

#### 【カネ】

- まちづくり支援事業補助金      自治協議会予算      その他助成事業等
- その他

#### 👉 ヒント

- ◎地域の歴史や文化などについては、住民の協力を得て、昔の地図や写真を集めてみたり、高齢者に話を聞いてみたりすると新しい発見があるかもしれません。
- ◎ありふれた地域資源であっても、その活用方法によっては、地域の活性化につながります。いろいろな視点から捉えなおしてみましょう。
- ◎資源は使えばなくなってしまうものばかりでなく、活用すればするほど価値が高まったり、増えたりするものもあります。例えば、「ヒト（人材）」や「人的ネットワーク」という資源は、活用すればするほど、成長したり、絆が深まったりします。地域の伝統文化や特産品を活用すれば、地域への興味・関心を高めたり、新たな活用の可能性を開いたりすることにもつながります。

### 3 企画立案しよう（企画シートの作成）

「ひろプロ」立案のヒントを説明します。「企画シート」を作成してみましょう。

#### ▶▶ 「ひろプロ」企画シート（91 ページ）

#### 1 「目的」を立てよう

企画の基本的な考え方を整理します。事業を立案する際には、様々な要素を総合的に考えて検討する必要がありますが、「目的」をしっかり定めることにより、それらの要素が一つの方向性に集約され、揺らぎのないものになります。様々な地域課題の中で、今回はどの課題について、どのような切り口で解決したいのかを考えてプロジェクトの「目的」（地域課題解決の方向性）を描いてみましょう。

#### ▶ 地域の現状・課題（今の地域）に対して、どのような地域にしていきたいのか、地域の未来像を想定し、「課題解決の方向性」をイメージしてみましょう

- ・何年後にどのような状態になっているかを想定して具体的に書いてみましょう。

#### ヒント

- ◎プロジェクトには、ステークホルダーと呼ばれる多くの人や組織が関わることとなりますが、今回のこの企画を主に誰に届けたいのか、誰と誰をつないでどのような関係を生み出したいのか、具体的なターゲット像を描きながら立案しましょう。
- ◎地域ビジョン等で具体的に示されているものがあればそこから転記する方法もあります。
- ◎住民自らが、地域の課題や未来像（こんな地域にしたい）を描くことから始めることも有効です。

#### ▶ 「持続可能な開発目標」（SDGs）の視点と関連付けて考えてみましょう

- ・「持続可能な開発目標」（SDGs）の 17 のゴールの中から関連するものを選んでアイコンを付してみてください。
- ・地域の課題解決がグローバルな課題解決につながっていくこと、グローバルな課題解決は地域での課題解決の積み重ねであることを意識しながら考えましょう。

#### 「持続可能な開発目標」（SDGs）

平成 27 年 9 月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標」（SDGs：エスディーゼーズ）が採択され、地球上の「誰一人として取り残さない（leave no one behind）」をテーマに、持続可能な世界を実現するための国際目標が定められています。目標は、誰一人として取り残さない「包摂性」や、全てのステークホルダーが役割を持つ「参画性」、社会・経済・環境に統合的に取り組む「統合性」等が特徴です。また、SDGs を受けて策定された日本国内の実施指針においても、優先的に進める分野の一つとして「あらゆる人々の活躍の推進」が挙げられています。

広島県においても、平成 30 年 6 月に「SDGs 未来都市」に認定、8 月に「SDGs 未来都市計画」を策定して、SDGs の達成を通じた平和構築の実現に積極的に取り組んでいます。



## 2 取組内容を描いてみよう

こんな地域にしたいという「目的」（地域課題の解決の方向性）を実現するためにどんな取組が必要でしょうか。どのようなアプローチで目的の達成に向かっていくのか、発想を広げて自由に描いてみましょう。

実現に向けてどのような資源（ヒト・モノ・コト・カネ）が必要となるか、それをどうやって確保するかについてもイメージしてみましょう。

### ▶ アイディアを生み出しましょう

まずは、質より量！いきなり企画書に書き込まず、できる限りいろいろなアイディアを生み出してみましょう。

#### ヒント

- ◎ いろいろなところにヒントは転がっています。様々な方面に情報のアンテナを張り巡らせておきましょう。企画者自身がワクワクしながらイメージを膨らませることが大切です。
- ◎ 「ブレインストーミング」（グループディスカッションで新しい発想を創出する会議手法）等でアイディアを広げてみる方法もあります。固定観念や先入観にとらわれず、自由に対話することで、一人では思いつかない斬新でユニークなアイディアが生み出されます。
- ◎ 「先行事例」を参考に、この地域で実現するならどんな取組になりそうか考えてみましょう。まずは「模倣」から始めてみることも有効です。

### ▶ 既存の講座・事業の見直し（リデザイン）から始めてみましょう

プロジェクトの立ち上げは、全てをゼロからスタートする場合だけではありません。既存の講座・事業の見直し（リデザイン）から始めてみることもできます。

既存の講座・事業を収集・整理し、つなぎ合わせて、新しい「プロジェクト」に位置づけ直してみましょう。公民館等の主催事業（学習プログラム）やサークル講座の中に、住民と一緒に新たな「プロジェクト」を立ち上げられそうな「きざし」や「チャンス」は見つかりませんか。

#### ヒント

- ◎ 既存の講座・事業を見直すプロセスを通じて、これまで取り組んできたことの中に、新しい価値や意味、関係性（つながり）を見出したり、「こうしたらもっといいかも」、「あの事業や組織とつなげたらもっと効果的かも」などの気づき生まれることがあります。
- ◎ アイディアを形にしていくためには、いろいろな人・団体の協力を得なければ進みません。地域の資源（ヒト・コト・モノ・カネ…）を有効活用し、多様な主体と連携・協働しながら、ネットワーク型の視点で進めていきましょう。
- ◎ 住民が主体的に当事者意識をもって「プロジェクト」に参加・参画できるよう、「体験型・参加型・参画型」の学びや活動を取り入れましょう。

### ▶ 「目的」と「手段」が入れ変わっていませんか

「目的」と「手段」（取組内容）の関係性をしっかり見極めて企画の中に落とし込みましょう。こうありたいという「目的」を実現するために選択した「手段」だったはずなのに、その「手段」を実行すること自体が「目的」になってしまう（手段の目的化）のはよく起こりがちな現象です。「何をやるか」より「何のためにやるのか」が重要です。



## ▶「広報」に取り組みましょう

広報はイベントの告知（集客）だけでなく、こんな活動をしているという情報発信の意味もあります。「企画」の段階で、積極的に「広報」の視点を取り入れましょう。

### ヒント

- ◎「あそこであんな楽しそうなことをしている」という活動への興味関心や理解が深まれば、新たな仲間が増えるかもしれません。
- ◎地域内に伝えるための広報手段として「チラシ・ポスター」「公民館だより」「クチコミ」を充実させるとともに、地域外や情報が届きにくい人に伝えるための「WEB（SNS、HP、動画配信、ポータルサイト）」の活用や、信頼されるための広報としての「マスコミ」や「自治体広報誌」の活用等を検討しましょう。
- ◎新聞やテレビ等で取組の様子が取り上げられることは、地域の声や魅力の発信、地域への愛着心や誇りの醸成にもつながります。
- ◎関係者（ステークホルダー）間でプロジェクトの目的や活動情報を共有する（インナー広報）ことにより、それぞれの持つ「広報ツール」でさらに情報を広げてもらえる可能性が生まれます。

## ▶スケジュールを立てましょう

3年程度を目安に「準備期（立ち上げ、チームづくり等）」「試行期（本格実施の前の試行実施）」「実施期（本格実施）」等に分けて、計画を立ててみましょう。スケジュールを時系列に並べて、PDCA サイクルを「見える化」しながら進めることで持続可能なプロジェクトが実現できます。

## ▶プロジェクトの未来の姿を描いてみましょう —発展・継続・関連—

中長期的な展望のもとで、本プロジェクトの終了（3年程度を想定）後、どのように継続・発展させていくのか、未来の姿を描いてみましょう。

## ▶取組のポイントをまとめましょう

プロジェクトのポイント（特色、良い所、アピールポイント）を3点程度にまとめて簡潔に表現してみましょう。取組の意図を住民や関係者に分かりやすく伝えることができます。

## ▶プロジェクト名を考えましょう

取組のアイデアがまとまってきたら、プロジェクトのネーミングを考えてみましょう。

### ヒント

- ◎地域内外の多世代・多様なたくさんの人や組織がこのプロジェクトに関わってみたい、また、関わってよかったと思える、ユニークで魅力的なネーミングを考えてみましょう。
- ◎「私たちのまちの私たちのプロジェクト」であることをアピールするために、「地域名」や「地域らしさ」を取り入れることも有効です。

### 3 「成果指標」を立てよう

「目的」を達成することができたか評価するための「成果指標」（目的の達成度・波及効果）を立てましょう。具体的にどのような状態になったら企画が成功し、成果が上がったと言えるか考えてみましょう。「バックカスティング思考」（未来（ありたい姿やあるべき姿）を起点に、現在を振り返って今何をすべきかを考える思考法）を取り入れてみましょう。

#### ▶ 「評価・検証」の計画は、企画段階からしておきましょう

- 「評価・検証」に取り組むのは、集客数や満足度といった事業結果の計測や、計画どおりに事業が遂行できたかどうかを判断するためだけではありません。
- 目標値に到達することも大切ですが、最も大切なのは、具体的にどのような変化を住民や地域にもたらしたか客観的に把握し、次につなげていくことです。
- 参加者アンケートのほかに、事業のミーティングや振り返り会の記録、事業に関わる方の感想の声等を日々記録に残しておくことで、地域や住民の変化等が見えてくることもあります。

#### ▶ 「目的」に立ち返りましょう

- 企画において最も重要なのは、「目的」の実現にどれだけ近づくことができたのか、どのような成果、波及効果があったかです。まずは「目的」に立ち返ってみましょう。
- 「目的」や「事業内容」と「成果指標」が論理的につながっているか整合性を確認しましょう。「成果指標」を考える中で、「目的」や「内容」を見直す必要性に気が付くこともあります。

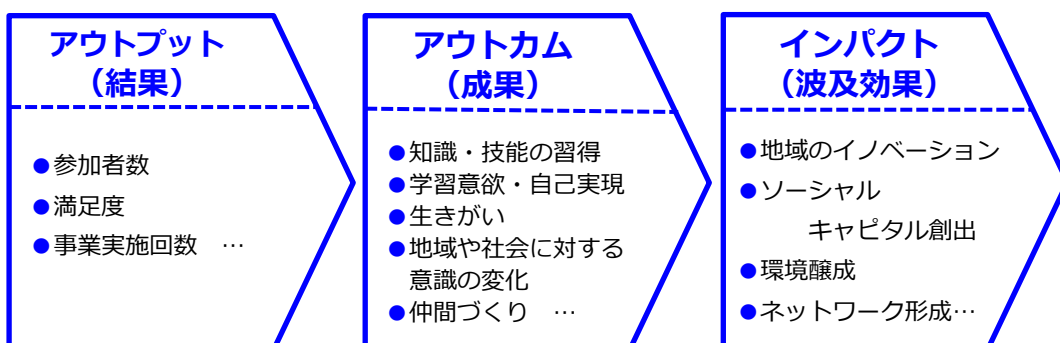
#### ▶ 「定量評価」と「定性評価」

- 「目的」をどれだけ達成できたか、さらなる波及効果はあったのか、指標はできるだけ数値化し、客観的なものさしで評価できるようにしましょう。（＝定量評価）
- 数字では表せない「質」に関する内容については、定性的に考えることで、つながり（関係性）や、意味、文脈などを明確にしやすくなります。（＝定性評価）

### ヒント

- ◎ 「指標」は、「アウトプット」（直接の結果）、「アウトカム」（目的の達成度・成果）、「インパクト」（波及効果）の3つの観点に分けて考えることができます。
- ◎ 「アウトプット」と「アウトカム」を混同しないようにしましょう。「インパクト」は地域への波及効果や影響のため、長期的な視点が必要です。
- ◎ 事業に参加する住民だけでなく、プロジェクトに関わる主要なステークホルダー（関係者・関係機関）にどのような影響を与えられるかについても想定してみましょう。

【イメージ】



## 4 「実施体制」を組んでみよう

「目的」を達成するために必要な「実施体制」を考えましょう。

- ▶プロジェクトのステークホルダー（関係者・関係機関）を洗い出し、互いの強みを生かし合える効果的な仕組み・体制（チーム）を描いてみましょう

### ヒント

- ◎公民館の利用者や地域内の既存の関係団体のほか、地域内外の多様な主体が関わり、住民の主体的・協働的な学びを通じた地域づくりが実現できるような実施体制を考えてみましょう。
- ◎自分たちに「できること」と「できないこと」を明確にし、いろいろな人や機関・団体の協力をあおぎましょう。いろいろな協力によって生まれた活動は、その後の主体的な活動へとつながるきっかけになります。
- ◎多様な主体がメンバーとして関わられるよう、「実行委員会形式」をとる方法もあります。

## 5 「運営財源・活動資金」を計画しよう

プロジェクトを進めていく上で必要な「運営財源・活動資金」を考えましょう。

- ▶主催事業の予算のほかに、助成金・補助金等の活用も検討してみましょう

- ・助成金や補助金は、比較的まとまった資金が調達できる一方で、あくまでも一時的な資金源であり、様々な制限や制約が生まれます。また、その制度を設けた「ねらい」があり使用目的も限られます。こうした特徴を知ったうえで、効果的に活用する必要があります。
- ・「金の切れ目が事業の切れ目」にならないよう、現実的かつ持続的な資金計画を立案しましょう。

### ヒント

- ◎広島県教育委員会 HP「公民館等お役立ち情報」では、公民館等を拠点とした地域活動活性化の資金源となる「助成金情報」を紹介しています。

**検索** 「ばれっとひろしま」 → 「公民館等お役立ち情報」 → 「助成金情報」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/joseikin-bunspo.html>

- ◎目的を共有できる機関・団体の中には、「予算（資金）」や「人員」、「広報手段」などの資源を持っているところがあります。各ステークホルダーの資源を活用することで、資金がなくても企画を実施できる場合もあるので、事前にしっかり確認しましょう。

- ◎「クラウドファンディング」の活用を視野に入れてみる可能性もあります。

クラウドファンディングとは、「クラウド（＝群衆）」と「ファンディング（＝資金調達）」を組み合わせた造語で、インターネットを通して自分のアイデアや活動を発信することにより、その思いに共感し応援したいと思ってくれる人から広く資金を集める仕組みです。平成 30 年 12 月に出された中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の中でも、このクラウドファンディングへの期待が取り上げられています。

